看護管理者のキャリアを形成する「経験からの学習」に関する研究

分　野　名　看護学分野
学 籍 番 号　0694005
氏　　名　早川　ひと美
指導教員名　上泉　和子教授

Ⅰ　はじめに

医療・看護を取り巻く環境の変化は激しく、看護管理者に求められる役割と責任は重要でありかつ重大である。今後、ますます高まるであろう看護管理者に対する期待に応えられる人材の育成は重要である。本研究では、看護管理者のキャリアを形成する「経験からの学習」に焦点をあて、その構造とプロセスを明らかにし、看護管理者の人材開発に寄与することを目的とする。

Ⅱ　研究方法と対象

先駆的な看護管理の実践者を対象に、研究者が作成したインタビューガイドを用い、半構成的面接を実施した。分析はグラウンデッド・セオリー・アプローチの分析手法を参考に、質的帰納的に行なった。カテゴリー化にあたっては、指導教官のスーパーバイズを受けた。

Ⅲ　結　　果

分析の結果、看護管理者の「経験からの学習」は７つのカテゴリーから構成され、次のようなプロセスを形成していた。すなわち、ある学習のための【きっかけとなる出来事】とそれと同時に発生する当事者の【学習に向かわせる心理的反応】によって、“学習につながる経験”が形成され、【学習に向かわせる心理的反応】が学習への起爆剤となり、【学習に向かう態度・姿勢】につながっていた。【学習に向かう態度・姿勢】は、導火線の役割を担うことで【学習の機会】へとつながっていた。この過程において【学習をアシストする他者の働きかけ】が作用し、学習は促進されたり深められたりしていた。そしてその結果、【学習された内容】と【学習された内容に基づく行為】が生み出されていた。研究協力者によって語られた現在の看護管理実践に影響した過去の経験には、新人時代や基礎教育時代の経験も含まれたが、一番多かったのは師長時代の経験であった。

Ⅳ　考　　察

看護管理者の「経験からの学習」において、経験が学習に転換されるためには【学習に向かわせる心理的反応】と【学習に向かう態度・姿勢】、【学習の機会】が重要な意味を持ち、特に経験を当事者の脳裏にインパクトある経験として印象づけるための感情や気持ちなどの感覚的反応が強く作用していると考えられた。

看護管理者の学習につながる経験として、師長時代の経験は重要であり、看護部門長のキャリアにとって布石となっている可能性が考えられた。師長時代にどのような経験をし、そこから何を学習したかによってその後の看護管理者としてのあり方に影響すると考えられた。そのため師長時代の経験を学習につなげる事が必要であり、そのためには師長自身がネットワークを構築し仲間同士で看護管理実践について語り合う場を設ける事や、上司である看護部門長等が、師長の看護管理実践を支援し見守りながら、看護師長として初めての経験をしている時や試練となる経験をしている時等に、声をかけ省察や洞察を促がすことが有効であると考えられた。